

# Web2.0時代の新たな図書館サービス

林賢紀

農林水産省農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報課（農林水産研究情報センター）

Tim O'Reilly が 2005 年に発表した概念である「Web2.0」とは、これまでの Web(Web1.0) から進化した次世代的なソフトウェアのデザインパターンとビジネスモデルの総称である。すでに blog, Wikipedia など Web2.0 的と言えるサービスはすでにインターネットの利用者に浸透している。以下、図書館と周辺の事例を中心に新たなサービスを概観したい。

フリーの百科事典プロジェクトである Wikipedia では、Wiki というソフトウェア上で構築され、誰も Web ブラウザで項目を追加し、編集できる。また集団で一つの Web サイトを管理でき、また HTML の知識がなくても編集できることから、メンテナンスの省力化を図ることができる。東京工科大学図書館蒲田分室の Web サイトが Wiki で構築されているほか、農林水産研究情報センターでは製本情報、利用マニュアルなど農林水産省試験研究機関図書室担当者間の情報共有サービスとして利用しているなど、Wiki の利用は多人数での Web サイトの管理や情報共有に適している。

また blog の出現は、あらかじめ用意されたテンプレートを元に Web ブラウザ上で必要な項目を入力することで Web ページの編集、更新を簡便に行うことができ、さらに作成した記事に読者からのコメントを受け入れる機能を持つなどの双方向性を持つことから、主に個人での情報発信手段を劇的に変化させた。すでに横芝光町立図書館、東京大学理学部生物学科図書室など blog を利用して情報発信を行っている図書館も出現している。横芝光町立図書館では作家の誕生日など様々な機会を捉えて「Web 展示」と呼ぶ Web 上での関連資料の紹介を行っているが、この感想が利用者から blog に書き込まれ、さらに図書館員から返信がなされるなど、双方向性のあるサービスを実現している。

農林水産研究情報センターにおいては、Web サイトの更新情報を通知する RSS(RDF Site Summary)の機能を利用し、農林水産省試験研究機関図書室 56 拠点の新着受入雑誌・図書情報を RSS で配信している。これにより、利用者に新着受入情報を知らせるために Web サイトを訪問させるのではなく、アップデートされた情報を毎日システムから届ける能動的なサービスを実現している。これに加え、全ての書誌所在情報を ISSN, ISBN, タイトルなどで検索し XML 形式で出力する API(Application Program Interface)を有しており、RSS のほか MODS(LC が定めた書誌用のメタデータ要素)による出力も可能とし各種の横断検索や書誌データの提供サービスにも活用できる。

Web2.0 は図書館員の手の届くところにある。Web2.0 の要素技術の活用は、情報発信をより簡易にするほか、今までの一方向の情報提供から、図書館が主体となり利用者に積極的に情報を届け、かつ双方向のコミュニケーション可能なサービスに転換することができる。また、OPAC に WebAPI を実装し Web サービスとすることで、例えば google map のような地図サービスと連動し、ある資料の所在館を地図で表すサービスが実現しているなど、今までには考えられなかったサービスの可能性が秘められている。